

証券市場新聞

1 第204号

日経平均株価

2万3391円87銭

▲61円55銭(前日比)

TOPIX

1702.77

▲4.64(前日比)

2019

11/11

月曜日

発行元 株式会社 証券市場新聞社

〒542-0081 大阪市中央区南船場3-7-27 NLC心斎橋ビル6C

TEL 06-6105-1904 FAX 06-7635-7861

marketpress.jp



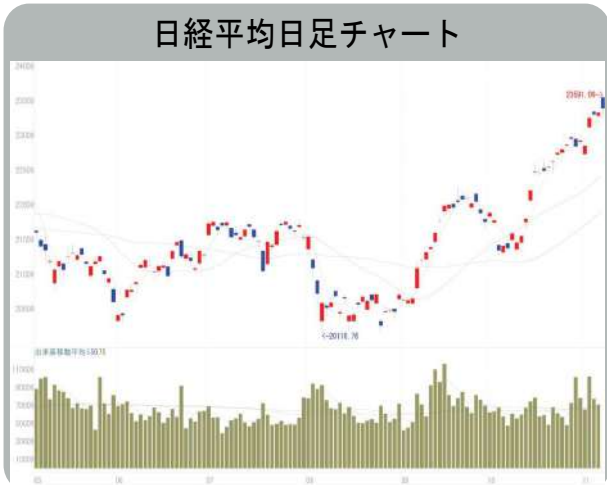
5G投資の拡大つづく

来期以降対応スマホの普及加速



5G対応端末開発はこれから本番だ。ただ、米アップル社も慎重に見ているように、各社とも減額の懸念がある。しかし、各社とも、5G対応端末の開発は、今秋から本格化する。特に、iPhone 11シリーズは、5G対応モデルの発表が期待されている。また、サムスンGalaxy S10eも、5G対応モデルの発表が期待されている。このように、5G対応端末の開発は、今秋から本格化する。特に、iPhone 11シリーズは、5G対応モデルの発表が期待されている。また、サムスンGalaxy S10eも、5G対応モデルの発表が期待されている。

ドルと4000円前後で推移している。これは、米ドルの円安が進んでいるためである。また、円安は、日本の輸出企業にとって有利である。しかし、円安は、日本の輸入企業にとって不利である。このように、円安は、日本の経済に大きな影響を与えている。



半導体関連の代表格ではアドバンテス(6857)と東京エレクトロン(8035)、村田製作所(6981)などが通期見通しを上方修正、通信系計測器ではアンリツ(6754)も第2四半期までの上振れ分で通期

予想を上方修正している。アドバンテスでは第1四半期で5Gスマホのエンジンリング向け、第2四半期で5Gスマホの初期量産向けが受注として計上され、アンリツも5G関連ではアジア向けを中心にチップセットな

り、iPhone 11シリーズに搭載される5G対応チップセットの受注が期待されている。また、アンリツは、5G対応チップセットの開発を進めている。このように、5G対応チップセットの開発は、今秋から本格化する。特に、iPhone 11シリーズは、5G対応モデルの発表が期待されている。また、アンリツは、5G対応チップセットの開発を進めている。

電子部品受注再拡大へ

は来年発売される次

3月期主要企業の第2四半期(4~9月)決算発表がほぼ一巡した。注目されていた電子部品に代表されるハイテクセクターは、米中貿易摩擦の影響が懸念されていたが、ふたを開けてみれば通期予想を上方修正する企業が相次いだ。各社で事情は異なるものの、強い動きを見せているのが次世代の高速通信規格「5G」向けに絡む設備投資。これを受けて株価も高値更新する銘柄が相次いだ。この5G投資が今後も拡大を続けるか否かで、押し目買いの判断が分かれることになる。

5G端末が普及する可能性が高く、仮に下期一時的に落ち込んでも来期には5G端末に絡む受注が再度拡大する可能性ありそうだ。4G端末ではアルミが使用されていた本体カバーも5Gでは電波特性上、樹脂製が必須になるとされ、樹脂製カバーを取り扱うタキロンシーアイ(4215)の受注増も期待される。5G関連受注は先行き半導体メーカー以外にも拡がりを見せそうだ。

今週の動意銘柄

ZHDは急伸し高値

直近3カ月は営業2ケタ増益

連休明け5日、Zホールディングス(4689)が急伸、半年ぶりに年初来高値を更新した。20年3月期第2四半期累計の連結決算は、営業利益757億円(前年同期比9.0%減)で着地したが、直近3カ月の7.9ヶ月は395億4500万円(同11.3%増)と2ケタ増益だったことをポジ

ティブ視。広告収入やアスクルグループ、一休の売上げが拡大、収益を押し上げた。

三井海洋営業赤字

5日、三井海洋開発(6269)が大幅に3日続落。19年12月期の業績予想について、通期連

結売上高で3500億円から3200億円(前期比44.2%増)、営業損益で80億円の黒字から60億円の赤字(前期149億2800万円の黒字)へ下方修正した。メキシコ向けFPSOの建造工事の工期延長が判明、第3四半期に受注工事損失引当金繰入額として約80億円を追加計上(累計約110億円)した。

タキロンCI下期期待

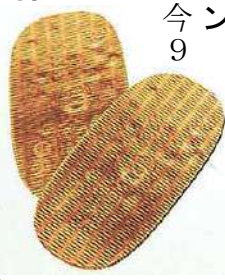
5日、タキロンシーアイ(4215)が急伸。20年3月期第2四半期累計の連結決算は減収減益だったが、齋藤一也代表取締役社長COOは「5Gに加えてサムスンも設備投資再開が伝えられ、高機能材含めて下期は挽回する」と意欲を見せ期待された。11月4日付5面決算記事参照

正直いいさんの株で大判小判

8日の東京市場は為替が109円20銭台と円安に振れていることや中国商務省が追加関税の段階的な引き下げで合意したと発表したことで相場には日経平均で2万3600円に迫る場面がありましたが、買い一巡後は急速に上げ幅を縮めました。急ピッチの上げが続いてきただけに利が出ていますので、下値では買いが入りやすくなり、小判なスを維持して引けるな

決算内容を見極めて買う

先行投資負担したメルカリ興では週明け以降に発表する銘柄も多く、今回の動き先走って買う動きは控えたいと思います。通期上方修正のホロン(7748)を買い直し、今9ヶ月期76%営業増益を見込んだBEENOS(3328)に打診買いを入れました。花咲翁



ZHDの日足チャート



シグマク営業益2.3倍

6日、シグマクス(6088)が大幅高、連日で年初来高値を更新した。20年3月期第2四半期累計の連結決算は、売上高77億7400万円(前年同期比24.9%増)営業利益9億3100万円(同2.3倍)と大幅増収で

光電工64%増益も利食い

6日、日本光電工業(6849)が急利益が急拡大した。ERPクラウド化サービスが立ち上り、PMOも伸長、通期計画の営業利益15億円(前期比13.4%増)に対する2Qの進捗率は65.4%に達する。併せて20万株、2億円を上限とする自社株買いを発表したことも好感された。

反落。20年3月期第2四半期累計の連結決算は、売上高897億3500万円(前年同期比13.5%増)、営業70億9000万円(同64.5%増)と2ケタ増収で利益が急拡大した。ただ、株価は先行して上昇しており、好決算発表が利益確定売りのきっかけになった。消費増税前の駆け込み需要に加え、新製品投

原弘産新事業と値頃

入効果や臨床情報システムの更新需要も収益を押し上げた。

6日、原弘産(8894)が連騰。新事業を開始することとファンドへの投資を発表したことが引き続き材料視された。新事業は国内外の企業や金融商品への投資を目的としたSPCへの投資を通じて投資リターン獲得を目的とする。関連会社が投資運用するファンドが募集する新外国投資証券を引き受ける。30円台の値ごろが買いを誘った。

ターゲットプライスに到達

先週の東京株式市場は米中協議の進展が伝えられたことで5週続伸となりました。先週の当欄では浅い調整局面入りを予測していましたが、更に上を取りました。しかし、足元の上昇はスピード違反。目標株価を昨年12月26日安値（1万8948円）から本年4月24日高値（2万2362円）までの上昇幅3414円を8月6日安値の2万0110円に足した2万3524円と考えておりましたが、先週末高値は70円ほどオーバーシュートしたところまでありました。そして11月限オプションSQ値は2万3637.93円で着地と幻のSQ値となり、解消できずに下落に転じました。ザラ場での25日移動平均線との乖離が4.8%まで拡大し、過熱感から利食いに押されて8日の日足は陰線形成。流石に今週は調整入りし、指数優位から個別物色へと移って行くものと考えております。

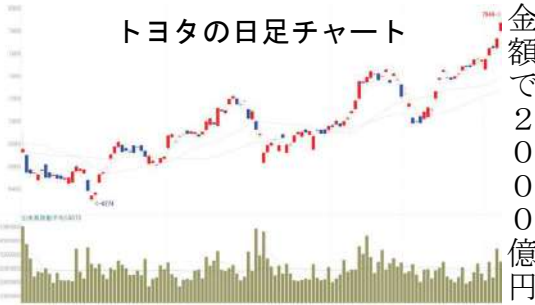
日々勇太郎

転ばぬ先のテクニカル

トヨタは新値追い
税引前利益増額し自社株買い

7日、トヨタ自動車（7203）が新値追いで、3月期決算の連続増益は、純利益が前年比1兆5000万

トヨタの日足チャート



1%増へ引き上げたことが好感された。併せて発行済み株式数を1.19%に増やした。金額で2000億円の増額。

ソフトバンク下値限定

7日、ソフトバンクグループ（9984）は反落。朝安のあと戻していたが、後場売り直された。20年3月期の第2四半期累計の連結決算で、営業損益15

を上限とする自社株買いを発表したこと。も買い気を誘った。

レック2Q18%営業増益

週末8日、レック（7874）が急伸。2

5億5200万円円の大赤字となった。ビジョン・ファンドとデルタ・ファンドからの営業損失やレインタルオフィスのウイワークとその関係会社などの未実現評価損失の計上が要因だが、これらは、10月25日に2958円まで売り込まれた時点で織り込み

不二電変電設備好調

7日、不二電機工業（6654）が底堅い。20年1月期の第2四半期累計決算で営業利益で1億3800万円（前年

済みで、孫正義会長兼社長の決算会見での説明を受けて過度な不安が解消され、下値は限られた。

メルカリ赤字拡大

8日、メルカリ（4385）が急落。20年6月期第1四半期連結決算で、営業損益が70億1000万円の赤字（前年同期25億1300万円の赤字）と大幅

どが寄与している。

ホロン通期上方修正

8日、ホロン（748）がストップ高。20年3月期通期の単独業績予想について、売上高を30億

3600万円から37億4600万円（前期比26.6%増）、営業利益を8億4900万円から11億2000万円（同38.0%増）へ上方修正した。中国でFEM新規受注を獲得。

0年3月期の第2四半期累計決算は、連結売上高で233億3000万円（前年同期比15.2%増）、営業利益で22億5300万円（同18.4%増）と大幅な増収増益を達成した。18年12月に買収した「バルサン」ブランドの殺虫剤事業に係る売上高が新たに加わったことや消費増税前の駆け込み需要と思われる売上高の増加な

国内流通が大きく伸びたほか、米国内流通も順調に拡大、売上高145億4800万円（同37.9%増）と大幅増収だったが、米国やメル

今週の動意銘柄

～決算情報～

TOA

減災・防災向け伸び増収 2Q微減益も通期営業増益据置く

TOA(6809)の20年3月期第2四半期累計の連結決算は、売上高207億6600万円(前年同期比3.2%増)、営業利益11億6700円(同1.2%減)、最終利益6億7000万円(同5.6%減)と増収ながら小幅減益で着地した。減災・防災市場向けに音響・映像機器場伸びたが、欧米向けが伸び悩み円高の影響もあって、収益性が若干低下した。

通期は売上高490億円(前期比5.7%増)、営業利益40億円(同2.5%増)、最終利益24億5000万円(同2.2%減)と従来予想を据え置いた。AI、IoT技術を取り入れた高付加価値の新製品投入や世界5地域でのマーケティング機能を強化することで、収益を維持する構え。配当は第2四半期末、期末各々10円を合わせ、年間20円を予定する。

三社電機製作所

今3月期減額も3Qボトムに 金属表面処理用電源でテコ入れ

三社電機製作所(6882)の20年3月期第2四半期の連結決算は、売上高118億4200万円(前年同期比0.5%増)、営業利益1億8100円(同78.8%減)と計画を下回り、増収ながら大幅減益で着地した。半導体は汎用インバータや商用エアコンなど主要用途の在庫調整の影響で伸び悩み、電源機器も販売を伸ばしたものの、収益性の高い金属表面処理用電源の減少で採算が悪化した。

通期は為替を含め厳しく見積もり、従来予想の売上高245億円を228億円(前期比6.4%減)、営業利益12億円を2億円(同89.1%減)に下方修正した。ただ、受注状況から第3四半期がボトムになる可能性が高いと見ており「5G投資など睨んで金属表面処理用電源を伸ばすことで収益をテコ入れする」(吉村元社長)考え。

英和

第2四半期42%営業増益 産業車両伸び定修更新需要も

英和(9857)の20年3月期の第2四半期(4～9月)決算は連結売上高で169億2400万円(前年同期比4.1%増)、営業利益6億4800万円(同41.6%増)、純利益4億4400万円(同42.2%増)と大幅な増収増益で着地した。船用機器製造業や電力会社向けの販売が減少したものの、新たな排ガス規制導入に関連して社会インフラ市場で使用される産業車両の販売が増加したことや、プラント・エンジニアリング、化学品製造業、鉄鋼製品製造業向けで定期修理による機器の更新需要が堅調に推移。増税の影響で機器の販売も前倒しになった。

通期は売上高380億円(前期比1.6%増)、営業利益15億円(同2.0%増)、純利益10億円(同6.3%増)と従来予想を据え置いている。

クボタ

3Q増収2ケタ増益で着地 コストアップを増収と値上げで吸収

クボタ(6326)の19年12月期第3四半期累計の連結決算は、売上高1兆4607億5000万円(前年同期比7.1%増)、営業利益1661億8400万円(同12.0%増)、最終利益1224億4000万円(同15.6%増)と増収2ケタ増益で着地した。

国内は機械、水・環境揃って伸び、海外ではトラクタや建設機械が好調を維持、固定費増や原材料価格上昇などコストアップを増収効果と値上げで吸収し、さらに収益性が改善した。業績好調に伴い、期末配当を19円(前年同期18円)へ増配を決めた。

通期は中国向けの減速などで売上高を1兆9700億円を1兆9200億円(前期比3.8%増)へ若干引き下げたが、営業利益2000億円(同5.6%増)、最終利益1450億円(同4.6%増)は従来予想を据え置いた。

～決算情報～

あじかん

第2四半期は増収も減益 M&A関連費用などが利益を圧迫

あじかん(2907)の20年3月期第2四半期累計(4～9月)の連結決算は売上高219億5800万円(前年同期比1.2%増)、営業利益は1億5100万円(同63.3%減)となった。

業務用食品等は厚焼玉子を中心とした玉子焼類や蒲鉾類が大きく拡大し、4月から連結子会社となった井口産交が貢献。一方で自社企画ブランド品や仕入商品の需要が減少した。利益面では人件費の増加やヘルスフードを中心とした継続的な販促費、連結子会社取得に絡む固定費の増加などが利益を圧迫した。

新製品の導入効果や冬場の原材料価格の動向など流動的な要因が多いとし、通期は連結売上高465億円(前期比4.8%増)、営業利益11億5000万円(同15.3%増)の従来予想を据え置いた。

大和ハウス工業

事業施設好調で通期増額 2Q賃貸住宅減少も増収2桁増益

大和ハウス工業(1925)の20年3月期第2四半期累計の連結決算は、売上高2兆1793億8900万円(前年同期比9.9%増)、営業利益2093億2400万円(同10.4%増)、最終利益1473億9000万円(同12.1%増)と増収2ケタ増益で着地した。賃貸住宅は建築基準不適合問題の影響が残り、減収減益だったが、積極的な不動産開発投資による事業施設や商業施設事の拡大でカバー、原価率改善効果も収益を押し上げた。

特に事業施設が計画を大きく上回って推移しており、通期予想について売上高を4兆2500億円から4兆3500億円(前期比5.0%増)、営業利益3780億円から3830億円(同2.9%増)、最終利益2520億円から2530億円(同6.6%増)へ上方修正。併せてガバナンス強化策も発表した。

立花エレテック

2Q減収減益も下期挽回へ M&Aで半導体デバイスを強化

立花エレテック(8159)の20年3月期の第2四半期累計(4～9月)決算は、連結売上高838億3300万円(前年同期比7.1%減)、営業利益30億2100万円(同6.4%減)となった。

FAシステムでは、前年にあった大ロプラント案件の反動減があり、半導体デバイスも米中貿易摩擦の影響を受けているが、首都圏での再開案件などで施設事業は好調に推移。

大阪取引所での決算発表の席上、**渡邊武雄社長**は「好調期の中での減速期、第3四半期以降で挽回したい」とし、通期は売上高1830億円(前期比0.1%増)、営業利益67億2000万円(同1.9%増)の従来予想を変えていない。八洲電機とその傘下の八洲電子ソリューションズの全株式を取得し、半導体デバイスの強化に意欲を見せる。

六甲バター

原料高もチーズ販売好調 第3四半期は増収ながら減益

六甲バター(2266)の19年12月期の第3四半期累計(1～9月)決算は売上高388億6900万円(前年同期比2.1%増)、営業利益18億9200万円(同39.0%減)、純利益9億400万円(同57.6%減)となった。

チーズ製品の販売は好調に推移しているものの、国内の生乳生産量の減少傾向が続いていることから国産原料チーズ価格は高い水準であることに加えて、国際的な乳製品需要の高まりにより輸入原料チーズ価格も上昇し、厳しい調達環境が利益を圧迫した。

今秋の新製品投入効果が期待され、通期は売上高553億円(前期比5.0%増)、営業利益24億6000万円(同43.6%減)、純利益14億1000万円(同52.0%減)と従来予想を据え置いている。

チャートから読む 騰落銘柄

アサヒGHD(2502)



19年12月期予想の下方修正が嫌気され急落したが、50日移動平均線割れ後は5100円台で下げ止まりの動き。天候などによる国内の不振は一時的な要因で、来期回復期待でリバウンドに期待。

ヨコオ(6800)



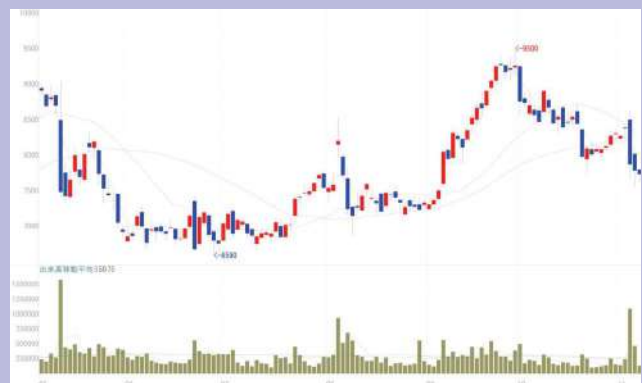
目先調整含みながら、25日線移動平均水準で下値抵抗力を発揮。5G設備投資本格化に伴う収益上ブレれ期待に加え、1日現在の信用倍率0.94倍の好需給も株価を押し上げ、大勢トレンドのなか一段高へ。

スカラ(4845)



10月上旬までの1000円前後の揉み合いを経て10月29日の969円から800円台前半まで値を崩す。127万株超の買い残が重石で、5月の年初来安値789円が視野、次は昨年12月の674円。

ゴールドウイン(8111)



ラグビーW杯に関連して9月30日に付けた年初来高値9500円で天井感。今期上方修正も反応は鈍く、日足陰転のあとは25日線に跳ね返される。当面、下値抵抗帯の7500円近辺での下げ止まりが焦点。

※チャートは日足

潮流

さあ、年末ラリー突入だ！

足元の株高後は銘柄選別必要

marKet/bAnk

10日以来、およそ1年1カ月ぶりの水準に上昇した。4日の米株式市場ではダウ工業株30種平均が7月15日以来、約3カ月半ぶりに史上最高値を更新した。

日本でも悪化が続いていた製造業のQUICKコンセンサスDI(QCDI)に、底入れの兆しが見え始めた。10月末の製造業QCDIは9月末から3ポイント改善し、マイナス4.5だった。2019年に入り製造業のQCDIは悪化を続けた。それでも足元では6月末を底に反転基調が続いており、10月末は19年1月以来の水準までマイナス幅を縮小した。これまで、QCDIと株価の動きは高い相関を示してきた。業種別にみると、QCDIが悪化を続けている中、足元で株価が反発した業種もある。やや期待を先取りした動きとも見て取れる足元の株高後は、一層の銘柄選別が求められそうだ。

これまで、製造業のQCDIの底入れと株価が反発するタイミングは、ほぼ同じ時期だった。19年9月以降の株高も、過去13年と16年に見られた動きに近い。また、5日の英フィナンシャル・タイムズ



11月5日に日経平均は節目の2万3000円を上回り、2018年10月

9月に中国製品に課した制裁関税の取り下げを検討している」と報じた。合意に至れば、

トランプ米政権は12月15日に予定している関税引き上げも見送る可能性が出てくる。

米政府が中国による知的財産権

の保護強化などを見返りに求めるとの観測もあり、合意実現までにはまだ曲折が予想される。それでも米中が制裁関税取り下げなどに踏み込む可能性が浮上したことについて、市場では米中関係が改善し、貿易協議が正しい方向に向かっている証しとの好意的な受け止めが聞かれた。トランプ大統領が2020年の大統領選を控え、貿易問題で一定の成果を上げたいと考えているとの思惑も根強い。米株市場で上げが目立つのは、景気敏感とされる「資本財」や「IT(情報技術)」、「金融」など。逆に下げたのは「公益事業」で、「生活必需品」も重い。景気敏感株の物色は市場参加者のリスクをとる余裕が増していることを示唆する。業績改善期待を織り込む株式市場。さあ、年末ラリー突入だ。

潮流銘柄はSMN(6185)、アドママーケティングコミュニケーション(9466)、ストライク(6196)。

ら優勝。直近では2017年1月に始まった夕刊フジ主催の「株・1グランプリ」において優勝。1カ月間における3銘柄の合計パフォーマンスでは15.5%と断トツの結果。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行う。http://marketbank.jp

約1万人の参加者の中から一回S1グランプリにて



岡山 憲史氏(株式会社マーカーケットバンク代表取締役)のプロフィール

参加者のリスク容認度増す



敏腕先物ディーラー

ハチロクの裏話

ハチロクのプロフィール
証券アナリストから証券会社の

法人部長を経て、225先物オプションディーラーに転身。アナリスト時代に培ったテクニカルやファンダメンタルズなどの分析力を駆使、リーマンショックなどの暴落時も乗り越えて西日本における225先物オプションディーラーとしてはトップクラスの運用実績を誇る。

先週の日経平均は米中貿易協議の進展から4日間続伸し、上げ幅は4日間で約541円となり、年初来高値を更新した。米国や独国の株価指数が過去最高値を更新しているのを見ると我が国の株価はまだ出遅

高値更新も 日柄調整必要

欧州系の掛け売り時期近い？

れ感はあるが、約2カ月半で約17%上昇しており過熱感が漂う。取引所が発表した東証の空

売り比率は40・4%と10月30日の48・8%から減つてるとからも推察されるが、この上昇には空売りの買戻しがかかり影響した。

さらに、先週は先物11月限のS/Q週

でもあったので、コールの売りをカバーする先物買いがかなり入ったようだ。結局、11月のS/Q

値は2万3637

円93銭となり、場中にも一度もタッチしない「幻のS/Q値」となっている。

S/Q値の値は25日移動平均線乖離率で見ると5・45%乖離しており、過去の例を見ても5%を超えてくるとその後調整に入っている。引け値ベースでは4

36%であるが、乖離率の5%超えには注意が必要だ。また、手口的に見たら相場を大きく動かそうとする

某欧州系証券会社の日経平均先物の買い建て玉が1万5000枚を超えてきてい

る。過去の経験則からするとこの会社は売りでも買いでも建玉は大体1万6000枚くらいでポジションを反転させているので、仕掛け売りの時期は近いのかもしれない。上昇ピッチが速かった為、思うように買えていない投資家も多いと思う。今後も押し目買いの意欲は強く底堅い展開が予想されるが、過熱感を冷やす短期調整が必要だろう。今週の日経平均は2万2950円から2万3700円のレンジで日柄調整すると思われる。

(ハチロク)



NYダウの日足チャート



日経225先物日足チャート

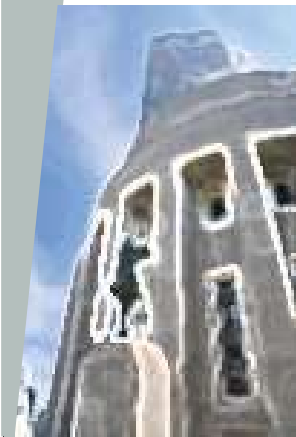
星野三太郎の株街往来

～後継者不足～

フエイスブックなどのSNSは登録だけで普段はほとんど投稿をしていない。フエイスブックについては、友達登録している友人や取材先で親しくなったIR担当者が日々の行動を熱心に投稿しており、それに対して興味を持った内容には「いいね！」をしているだけだ。

その登録者の中には、この数年間は全く連絡をしていない方も多く存在するが、「いいね！」がキツカケとなり、再度交流することが少なからずある。これに加えて先週は誕生日に「おめでとう！」の通知が来て、それを契機にコンサルティング会社の社長とほぼ5年ぶりに再会することになった。

その社長とも出会ってから数十年以上経過したが、社長の座を息子さんに譲って、今後は会長職としてサポートするそうだ。これで「将来の不安が解消されましたね」と話をするると、「我が社は幸せだが・・・」と前置きしたうえで、後継者不在で会社譲渡依頼の案件が増えているそうだ。近年は派遣などの雇用が増える半面、正規社員として腰を据えて働く人材は減少傾向だ。業績に不安はなくても経営者が存在しないと組織を維持できない。構造的な社会問題として将来に不安を感じた。



企業レター

冬季限定エンターテインメント開幕!

石原さとみさん“冬の魔法界”に大感動

USJ

タジオ・ジャパン(USJ)は、壮大なキャッスル・ショー「ホグワーツ・マ



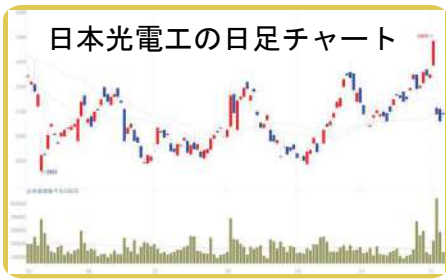
巨大なキャッスル・ショー「ホグワーツ・マギック」の再演をはじめ、「ウィザード・オブ・ハリウッド」を飾る、冬季限定エンターテインメントを11月8日から開幕。それに先駆け7日に「冬の魔法界」開幕セレモニー&プレス



石原さとみさんと12人の子どもたち

プレビューを開催した。ホグワーツ城の前で開催された開幕セレモニーではホグワーツ魔法魔術学校の生徒たちの合唱「ルーブル・フロッグ・クワイア」が、この時期だけのクリスマス・ソングを美しく奏でるなか、グリフィンドールのローブとマフラーをまとった石原さとみさんが、愛らしい12人の子どもたちと仲良く手をつなぎながら登場。石原さんは長椅子に座り、周囲に集う子どもたちに向け、この冬の初演となる夜のキャッスル・ショー「ホグワーツ・マギック」のエンターテインメント・マジックのストーリーを、包み込むような優しい語り口で語り、読み聞かせた。

続いて、巨大なキャッスル・ショーが開催され、石原さんが朗読したストーリーそのままに、ホグワーツ城を舞台に4人の魔法団による秘密の物語が繰り広げられた。ショー終了後、石原さんは、「思わず踊りたくなっちゃいました! すごく引き込まれました」と感想を語った。



米側は関税に反論も、過度の楽観は避けるべき

「アメリカとの間で段階的に関税を引き下げること」に同意していることを明らかにし、その後、米ホワイトハウスのグリシャム報道官もフォックス・ニュースとのインタビューで、中国と進めている通商協議について「間もなく合意できる」と非常に楽観している」と語ったことが上値を迫っている。

記者の視点 相場見通し

押し目買い意欲継続

好決算も売られた銘柄注目

11月第2週の東京株式市場は強い動きが継続し、日経平均

のはリスクがあるものの、現状で売り材料を見つけないのは難しい。チャートの

個別では6日に第2四半期で155億5200万円の営業赤字を発表したソフトバンクグループ(9984)が悪材料を織り込んで出直る動き。50日線の400円処を抜ければ更なる買い戻しを呼ぶ可能性もある。一方、2Q決算発表が一巡したことで、65%営業増益でも利益確定売りで急落した日本光電工業(6849)にように好決算でも売られた銘柄を再度チェックしたい。

今週のスケジュール

- 8日 米11月ミシガン大学消費者マインド指数(9日0:00)
- 9日 中国10月消費者物価、中国10月生産者物価(10:30)
- 10日 スペイン総選挙(総選挙後の連立交渉決裂を受けての再選挙)
- 11日 9月機械受注(8:50)
10月景気ウォッチャー調査
10月30・31日開催の日銀金融政策決定会合の「主な意見」
中国「独身の日」セール
- 12日 10月マネーストック(8:50)
10月工作機械受注(15:00)
独11月ZEW景況感指数(19:00)
- 13日 10月国内企業物価指数(8:50)
米10月消費者物価(22:30)/米10月財政収支(14日4:00)
- 14日 7-9月期GDP(8:50)
中国10月都市部固定資産投資、中国10月工業生産、中国10月小売売上高(11:00)
ドイツ7-9月期GDP(16:00)
米10月生産者物価(22:30)
米通商拡大法232条による自動車関税の発動期限
- 15日 米11月NY連銀製造業景況指数、米10月小売売上高(22:30)
米10月鉱工業生産・設備稼働率(23:15)
米9月企業在庫(16日0:00)

第3週のイベント的には13日に米10月消費者物価、14日に中国10月小売売上高などの経済指標の発表が予定されているが、米中通商交渉の進展に変化がなければ、内容が悪くても

過度に悪材料視されな

ワールド・ボクシング・スーパー・シリーズのバンタム決勝は、前評判に反して大接戦になった。終盤の左ボディによるダウンが決め手になり、井上尚弥が判定勝ちしたが、序盤に右目上をカットした井上はノニト・ドネアの攻勢に出血が目立ち、クリンチで凌ぐ場面もあった。かつて5階級制覇を果たしたドネアだが、ピークを過ぎた36歳にして予想以上の強さはコンディション調整による完璧な仕上がりにあると感じた。風邪をこじらせて2週間、未だすっきりせず、体調管理の大切さを痛感している。

編集後記

【ご注意】証券市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測的的確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被りたいかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。